研究主幹総評および領域活動概要

I.　評価の概要

対象領域：国際科学技術協力基盤整備事業　日本-台湾研究交流
「超高齢社会における高齢者のケアと支援のための ICT」

対象期間：2016 年 4 月～2022 年 3 月

II.　研究主幹（氏名、所属機関、役職）

廣瀬 通孝　東京大学　名誉教授

III. 採択課題

研究課題名	研究代表者名	所属機関	役職
超高齢社会における高齢者のための情報想起支援	奥村 学	東京工業大学 科学技術創成研究院	教授
超高齢化社会における社会参加のための人間拡張・遠隔就労技術の研究	稲見 昌彦	東京大学 先端科学技術研究センター	教授
高齢者のための革新的仮想視覚・力覚刺激呈示システムの開発	加藤 博一	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	教授
独居高齢者の QOL のモニタリングと向上のための遠隔社会的インタラクション支援	熊田 孝恒	京都大学 大学院情報学研究科	教授
超高齢化社会で活躍する高齢者を支援するソフトエグゾスケルトンならびに装着型アシスト機器の開発	栗田 雄一	広島大学 大学院工学研究科	教授
高齢難聴者を対象としたインクルーシブ音デザイン：音環境の分析とガイドライン構築	寺澤 洋子	筑波大学　図書館情報メディア系	准教授

IV. 研究主幹総評

本領域「超高齢社会における高齢者のケアと支援のための ICT」は、日本と台湾双方が直面する超高齢社会の諸問題に対し ICT の研究開発でアプローチしようというもので、日台の共同研究プロジェクトとして適したテーマ選

定であったと思う。 具体的には（1）高齢者の社会参画のための VR&ロボット技術（2）自立生活のためのモニタリング技術（3）高齢者介護のためのモニタリング技術などの 3 トピックに重点を置き、2 回の JST-MOST 共同公募により 6 課題を支援した。
技術的にも社会的にも緊急度の高い課題であるためもあって公募の競争率は高く、選定された 6 課題はいずれもレベルの高い研究計画であった。領域実施期間の後半、新型コロナ禍という想定外の逆風を受けたにもかかわらず、各課題ともリモートの活用などにより所定の目標を達成できたと評価できる。課題終了後も、ほとんどの課題が交流のチャネルが存続する仕組みを作っており、今後の発展が期待されるところである。
さらに各課題の協力によって、国際学会・国内学会においてオーガナイズドセッションの企画や学会誌の特集号企画を行うことができ、領域の存在感のアピールも含めて、良い領域運営ができたと思っている。

V. 領域活動概要

時期	活動
2016 年 4 月	ワークショップ「高齢者のアクセシビリティおよび支援のための ICT」分野（於：台南）
2016 年 7 月	第 1 期公募開始
2017 年 1 月	第 1 期採択課題決定
2017 年 4 月	ASIAGRAPH2017（於：台南）のオーガナイズドセッションにて JST および MOST の協力および分野について紹介
2017 年 4 月	第 1 期研究開始
2017 年 11 月	第 2 期公募開始
2017 年 11 月	第 1 回領域会議（於：東京、日本側研究者のみ、1 期）
2018 年 6 月	第 2 期採択課題決定
2018 年 6 月	第 2 期研究開始
2018 年 7 月	第 2 回領域会議（於：東京、日本側研究者のみ、1 期・2 期合同）
2018 年 11 月	成果報告会「超高齢社会における高齢者のケアと支援のための ICT」分野（於：台南）
2018 年 12 月	ヒューマンインタフェース学会において、高齢者支援 ICT 専門研究委員会（SIG-SAP）研究会立ち上げ
2019 年 6 月	第 3 回領域会議（日本側研究者のみ、1 期・2 期合同）および第 1 回 HI 学会研究会（於：奈良）

2019 年 7 月	HCII　2019（於：フロリダ、アメリカ）にてオーガナイズドセッションを開催
2019 年 12 月	第 2 回 HI 学会研究会（於：東京）
2020 年 3 月	第 1 期　奥村課題が研究終了
2020 年 7 月	HCII2020（於：オンライン）にてオーガナイズドセッションを開催
2021 年 2 月	第 4 回領域会議（日本側研究者のみ、1 期・2 期合同）
2021 年 3 月	第 1 期　稲見課題、加藤課題が研究終了
2021 年 7 月	HCII2021（於：オンライン）にてオーガナイズドセッションを開催
2022 年 3 月	第 5 回領域会議（日本側研究者のみ、2 期）
2022 年 3 月	第 2 期　熊田課題、栗田課題、寺澤課題が研究終了
2023 年 2 月	ヒューマンインタフェース学会・高齢者支援論文特集号を発行